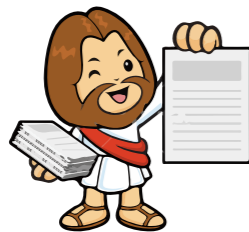


2<sup>火</sup>, 12<sup>金</sup>, 16<sup>火</sup> ~ 19<sup>金</sup>

伝道実践

近隣の町での教会案内等の配布、訪問伝道、関係づくり、その他、介護施設やカフェ、イベント等での伝道ライブも行います。



7<sup>日</sup>

イースター・フェスティバル

2年ぶりの開催となる今回は、ゴスペル、腹話術、ダンスと内容も盛り沢山。勿論メッセージもあります。この機会を通して、一人でも多くの方が、イエス様が救い主であることを信じ、受け入れるよう、是非お祈りください。

9<sup>火</sup> ~ 11<sup>木</sup>

特別講義 ジョン・コー師 (シンガポール・ペトラチャーチ)

23<sup>火</sup> ~ 25<sup>木</sup>

講義 キリスト者の考え方 永井 学院長

この講義では、過去の体験から自分が持っている考え方と向き合い、キリスト者としてどのような考え方が必要かを学びます。

30<sup>火</sup> ~ 6/2<sup>金</sup>

講義 旧約聖書概論 I 田崎 敏明師

旧約聖書全体を通して何が書かれているか、そこから神様が私たちに何を語られ、何を教えられているのかを学びます。

学院長のデスクから

新緑の、一年で最も清々しい季節を迎えておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

拡大宣教学院では現在、昨年は四週間でしたが、6月中旬からは海外からのメンバーを加えての、Global Leader Intern (グローバル・リーダー・インターン) という 8 週間にわたる新しいプログラムの準備に取り組んでいます。(本プログラムの様子は、7月号以降でお知らせする予定です。)

今年は海外からの参加者も与えられ、いよいよその名にふさわしくグローバルな学びと実践が期待されます。ぜひ、このプログラムのためにお祈りください。

皆さまの主とともに歩む毎日が、祈りと感謝に満ちあふれたものとなりますように!

学院長 永井信義



BOOK あらかると

永井信義

クリスチャンのみならず、その著作が多くの人に読まれた渡辺和子さん (ノートルダム清心女子大学教鞭、ノートルダム清心学園理事長などを歴任) が昨年暮れ、89 歳で召天、その彼女の遺稿である『どんな時でも人は笑顔になれる』(PHP 研究所) がこの春、出版されました。他の著作同様、聖書のことばや価値観を土台に書かれた、読者に「生きる指針、人生のヒント」を与える一冊です。「信仰は、持つものではなくて、生きるもの。」「愛をこめた時間は、無駄にはならない。」「人は欲しいものを祈り願い、神様は必要なものをくださる。」「神様との約束のおかげで、どんな時も笑顔になれる。」



Kakudai Mission Institute No.345

Magnify

拡大宣教学院 機関紙 マグニファイ



バランスをとる

イエス・キリスト福音の群 東北中央教会 牧師 永井 信義 師

現代社会は政治、経済、教育などあらゆる面で混乱の中にあります。多くの人々は解決を求めています、どこにもそれを見つけないことができません。今こそキリスト者が良き知らせを告げ知らせる時ではないでしょうか。また、今までとは違った形ではあるかも知れませんが、人々の心は福音に対して開かれているのではないのでしょうか。「確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。」(Ⅱコリント 6:2) このチャンスを生かして、ひとりでも多くの人を救いへと導く者でありたいと思います。

リック・ウォレン牧師はその著書『健康な教会へのかぎ』(いのちのことば社)で、「健康とは、すべてのバランスが保たれていることである」と語り、さらに「二十一世紀の教会について鍵となるのは、教会の成長ではなく、教会の健康であると信じている」と言っていますが、健康でバランスがとれていることは、神の福音を宣べ伝えるすべての働き人、そして、キリスト者に求められていることではないかと思えます。

バランスがとれている教会、そして、キリスト者は礼拝、交わり(教育、弟子訓練などを含む)、宣教の上しっかりと立っています。つまり、神との関係(礼拝)、他のキリスト者との関係(交わり)、また、世の中との関係(宣教)が正しいものであるということです。

バランスをとるために必要なのはまず、「受けるよりは与えることに心を向ける」ことです。キリスト者であっても、受けることに心を集中してしまいがちです。与えることに心を注いでいきたい、「受けるよりは与える」ライフスタイルを確立したいものです。

また、「まだ救われていない人を愛することです。キリスト者にとって神を愛すること、他のキリスト者、特に自分の教会の人たちを愛することは難しいことではないと思います(勿論、難しさを感じられている人がいることは知っていますが)。

ウォレン師が「イエスがしたように未信者を愛するということが、教会成長において見過ごしにされていることはない。……未信者への愛の欠如の代わりになるいかなる方法、プログラム、技術も存在しない」と指摘していますが、私たちは主イエスが持っておられた魂に対する情熱を失うことのないように、まだ救われていない人々への愛を続けたいと思います。

この愛はキリスト者を宣教へと押し出します。この愛こそが、真の伝道へと私たちを導くのです。

教会は「地の塩」、「世界の光」として、教会の壁の外にいる人々の救いのためにも存在していることを忘れないようにしたいものです。確かに世の中との関係に難しさを覚える時も多くあると思います。しかし、「教会の中だけでよい」という悪魔の言葉にだまされないように、積極的なこの世との関わりを模索し続けることが、私たち神を信じる者には求められているのです。



※マグニファイ 1998年5月号「巻頭メッセージ」に加筆、修正して掲載しています。

CONTENTS

巻頭メッセージ

バランスをとる

永井 信義 師

集会レポート

第24期生卒業式  
第27期生入学式

BOOK あらかると

5

2017 May

Magnify

拡大宣教学院 機関紙 マグニファイ ■発行人: 永井 信義 ■編集: 東海林 真

〒981-3604 宮城県黒川郡大衡村ゴスペルタウン ☎022-345-2991 ☎022-345-2992

✉gospeltown@infoseek.jp 郵便振替: 02240-7-34622 facebook 「gospeltown」

# 第24期生 卒業式・第27期生 入学式

ハレルヤ!! 今期も入学生が与えられ、第24期生の卒業式と併せて第27期生の入学式が執り行われました。とても祝福に満ちた式となりました。その様子を数枚の写真と、卒業生の「感謝の言葉」、入学生の「決意の言葉」でご紹介致します。

## 卒業生による感謝の言葉

### 第24期 卒業生 中山 孝弘

主の支えと、励ましにより無事に拡大宣教学院を卒業出来ました。ただただ主に感謝です。又、皆さまのお祈りと、サポートにも支えられたことに本当に感謝しています。

私は卒業後、地元栃木県に戻り、しばらく無牧師教会であった、那須烏山市にある「烏山福音教会」に赴任することになりました。

初め、このお話を頂いた時には、「どこでもいいけど、そこだけはやめてください」と、矛盾したお祈りをしていました。ですが、祈りが少しずつ変えられていき、「分かりました。もし、あなたの御心であるなら御言葉を下さい。」そう祈りますと、ヨハネの福音書4章34節～38節の御言葉が与えられました。しかし、まだ不安もあったので、妻と「私たち二人が分かる形でこの御言葉を与えて下さい。」と無茶なお祈りをしました。すると、次の日にある姉妹を通して神様が語られ、間違いなくこの御言葉が与えられていることを思い知らされました。

「分かりました。あなたに従います。」そうお祈りを捧げると、平安が与えられました。ですが、自信に満ちあふれているわけでもなく、「これだ!!」という大きな確信をもっているのでもありません。しかし、主は「私に従いなさい」と今日も語り続けて下さいます。ただ、この方のみ従う。それだけです。

イエス様を見上げ、従う事が出来るこの道に歩めることに本当に感謝しています。



### 第24期 卒業生 松本 侑香里

実を言いますと私は、あまり神学校に行きたいと思っていませんでした。というより、教会で訓練してきたので、神学校で学ばなくても良いと思っていました。しかし、この学院に入学し、共同生活における人間関係や生活面などから、たくさんのお話を学ばされました。その中で大きかったことは、「しかし神は、知恵ある者ではなくしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者ではなくしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものがない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。これは、神の御前でだれをも誇らせないためです」(1コリント 1: 27～29)と聖書に書いてある通りに、自分は弱い者、取るに足りない者、無に等しいものであるということを感じました。しかし、神様はその様なものを選び、救ってくださり、この様に召して下さったこと、神様の働きをさせてもらえることは恵みだとわかりました。ただ感謝するのみです。

これからも訓練することや、学ぶことは沢山あり、生涯勉強だと思っています。

無事に卒業できたこと、ここでの出会い、そして母教会や、周りの方々の祈り、励まし、経済的なサポートがあったこと、共に学ぶ仲間がいたということ、すべてに感謝します!

## 入学生による決意の言葉 第27期 入学生 福森 雄一

私は、2010年7月11日に福岡の「イエス・キリスト神の愛教会」で受洗しました。それまでの私は、ロックバンドでプロを目指して活動していましたが、うまくいかず、2度の結婚と離婚を繰り返し、暗闇のどん底を何かを求めながらも、音楽活動を心の拠り所として生きていました。その中でゴスペルを始める事になり、ブラックゴスペルの音楽の魅力に惹き込まれていき、自分でゴスペルを作りたいと思いました。そして実際に作ってみたりする中で、主の導きによりクリスチャンになりました。しかし、信仰生活を始めた頃は、毎日飲酒をしたり、とても清く正しい生活とは言えない状況でした。それでも、集会に積極的に参加して聖書を学んでいくうちに、神中心の生活へと劇的に変えられ、飲酒もきっぱりとやめることが出来ました。

そして、当時「神の愛教会」にいた、研修生の木原成実姉妹や、中山愛希子姉妹の献身する姿を見て、漠然と拡大に行きたいという想いが与えられました。しかし、主からのGOサインがすぐに出る訳ではなく、神の愛教会での奉仕を通して少しずつ変えられ、自我が砕かれていくなか、昨年9月の福岡で行われた全国聖会で奉仕をさせていた時に改めて、自分の救われた教会の群に神学校があることの恵みと、この群の素晴らしさをメッセージや奉仕の中でひしひしと感じ、聖会2日目の献身の招きの後に拡大宣教学院に入学したいという強い想いが与えられました。そして聖会最終日の朝、神の愛教会の早天祈禱会で、テモテへの手紙第一3章1節が召命のみことばとして与えられ、決心しました。

拡大宣教学院を創設された、永井明牧会長を始め、永井信義学院長、卒業された先生方や先輩方のご奉仕と祈りとに支えられながら、今こうして学びの恵みを受けられる事に感謝し、へりくだり、主に仕える者として訓練を受け、砕かれ、変えられながら、イエス様と共に歩んで行きたいと思えます。

### 第24期 卒業生 倉持 守

この3年間、皆様の祈りと様々なかたちでのサポートを受けて、無事に卒業を迎えることが出来たこと、また、何より神様がこの学びへと導き、学ぶ機会を与えてくださったことに感謝しています。

この学院生活のなかで学んだことで、最も印象に残り、今もひしひしと感じていることがあります。それは、「神様の創造はユニークである」ということです。学院の学生ばかり、ゴスペルタウンの皆さん、そして、何よりも拡大宣教学院自体がとてもユニークです。自然豊かな環境にあるゴスペルタウンでは、四季折々に、様々な生き物を見たり、触れることが出来ます。この自然界は、神様の造られた植物や生き物で溢れていますが、それと同じように私たちも個性豊かに造られています。神様は一人一人を愛して、その人にしかない良さや働き、道などを備えておられるのだなあと、この学院生活を通して学びました。それ故に、チャレンジや取り組みは、それぞれに違った内容が備えられていることがあり、それらを通して、私たちを教え、成長へと導き、仕えるものとして整えて下さることを、学院生活全てを通して教えて頂いたように思います。



今後は、イエス・キリストにだけ望みを置き、この方を伝えていく、宣教に目を向け続けていく者でありたいです。これからの歩みも主が導いて下さることに期待して、一歩一歩、みことばに、御声に聞き従って歩んでいきたいと思っております。3年間ありがとうございました。



### 第24期 卒業生 東海林 真

私は、この式の直前まで卒業の実感が全くありませんでした。数人の方から「絶対泣くでしょ」と言われましたが、私としては全く卒業感が無いので「イヤ全然泣かない」と言いながらも(実際の式では、普通に泣いてしまいました)、どうしてこんなに卒業の実感がないのか考えてみました。

ひとつは、卒業して地元や他のどこかに遣わされる訳ではなく、ここに居残る事が決まっている事です。そして、この3年間を思い返したとき、やりたいと思って出来なかったこと、やった方が良かったのに出来なかったこと、やらなきゃいけないのに出来なかったことが、沢山ある事だと気付きました。しかし、そのように足りなさを感じながらも、この3年間で学んだことや仲間たちと過ごした日々は、私にとって主が与えて下さった大切な財産です。

学院長を初め、この3年間ご指導頂いた先生方や研修生、スタッフの方々、また、お祈りや様々なかたちで支えて下さった母教会の牧師ご夫妻と兄弟姉妹の方々、並びに東北中央教会の兄弟姉妹の方々、そして共に学んだ仲間たちに本当に感謝です。そしてそれら全てを与えて下さった主に感謝します!!

最後に、これで私自身の学びが終わった訳ではなく、この先も、学びと訓練は続いていきます。「神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知る」者となれるよう、祈り求めてまいります。これからも、よろしくお願い致します。



## 入学生による決意の言葉 第27期 入学生 福森 雄一

私は、2010年7月11日に福岡の「イエス・キリスト神の愛教会」で受洗しました。それまでの私は、ロックバンドでプロを目指して活動していましたが、うまくいかず、2度の結婚と離婚を繰り返し、暗闇のどん底を何かを求めながらも、音楽活動を心の拠り所として生きていました。その中でゴスペルを始める事になり、ブラックゴスペルの音楽の魅力に惹き込まれていき、自分でゴスペルを作りたいと思いました。そして実際に作ってみたりする中で、主の導きによりクリスチャンになりました。しかし、信仰生活を始めた頃は、毎日飲酒をしたり、とても清く正しい生活とは言えない状況でした。それでも、集会に積極的に参加して聖書を学んでいくうちに、神中心の生活へと劇的に変えられ、飲酒もきっぱりとやめることが出来ました。

そして、当時「神の愛教会」にいた、研修生の木原成実姉妹や、中山愛希子姉妹の献身する姿を見て、漠然と拡大に行きたいという想いが与えられました。しかし、主からのGOサインがすぐに出る訳ではなく、神の愛教会での奉仕を通して少しずつ変えられ、自我が砕かれていくなか、昨年9月の福岡で行われた全国聖会で奉仕をさせていた時に改めて、自分の救われた教会の群に神学校があることの恵みと、この群の素晴らしさをメッセージや奉仕の中でひしひしと感じ、聖会2日目の献身の招きの後に拡大宣教学院に入学したいという強い想いが与えられました。そして聖会最終日の朝、神の愛教会の早天祈禱会で、テモテへの手紙第一3章1節が召命のみことばとして与えられ、決心しました。

拡大宣教学院を創設された、永井明牧会長を始め、永井信義学院長、卒業された先生方や先輩方のご奉仕と祈りとに支えられながら、今こうして学びの恵みを受けられる事に感謝し、へりくだり、主に仕える者として訓練を受け、砕かれ、変えられながら、イエス様と共に歩んで行きたいと思えます。



祈り

ゴスペルチャーチ北上 蟹田 寛 牧師



聖書

延岡東海教会 田崎 敏明 牧師



卒業証書授与



送る言葉

第25期生 佐藤 慎



祝いの言葉

茨木キリスト福音教会 永井 基呼 牧師



歓迎の言葉

第26期生 掛端 舞子



祝いの言葉

聖愛基督福音教会 森本 志人 牧師



祈り



祝禱

拡大宣教学院 名誉学院長 永井 明師